

2018/11/26

うときゅういっきの英語夜話（ことば夜話）日本語のアルファベット（ローマ字？）表記に“h”をつける効用



以前「東京」は外国の方には「Tokyo」と書くより、「Tohkyoh」と表記した方が、より日本人に近い発音になり、コミュニケーションがスムーズになるのではないかという記事を書きました。

もともとは、外国の人がまるで判で押したように、国籍に寄らずどのひとも、なぜ「とうきょう」を「トキョ」と発音するのか疑問に思ったのが発端でした。

実際その記事以降も、会う外国人、会う外国人がみな、相変わらず Tokyo の文字を見て、トキョ、トキョと発音し、

自分の仕事に関する事柄では、ネパールのコックさんが、店の真ん前の東急ストアに買い物に行く際、どこへ出かけるのかと訊くと「トキュ、トキュ」と言って、最初はどこに行くのかわかりませんでした。

他にもお客様の太田さんのことを「Ota,Ota」と続けて言うものですから、

「何？誰がオタオタしとん？なんで、外国人のおのれが、「オタオタする」なんて、そんな hi-level(ハイレベル)アンド hi-spec(ハイスペック)な日本語、知っとんのや？」

と問い返すと、

「No,No,お客さん、オタさん」というので

やっとそれが「太田様」のことだとわかるような始末。

要するに日本で使われている日本語のアルファベット表記情報からは、外国の人には

「とーきょー」「とーきゅー」「おーた」と伸ばす「ー」に当たる部分の情報が全く得られないためにこうした怪現象が起こっているらしいのです。

それで、確かに見た目は悪いのですが

「Tohkyoh」

「Tohkyuh」

「Ohta san」

と、

アルファベットに“h”を書き添えてあげると、

「とーきょー」

「とーきゅー」

「おーた」

つまり

「とうきょう」

「とうきゅう」

「おおた」

とわれわれ日本人の耳に聞きなれた発音になりました。

ちなみに、上記を

「Toukyou」

「Toukyuu」

「Oota」または「Outa」

と書き表すと

我々が聞きなれた

「とーきょー」

「とーきゅー」

「おーた」

ではなく

「とうきょう」

「とうきゅう」

「おおた」または「おうた」

と「う」や「お」が強調されすぎて、耳にするとなんか変な日本語の発音になり、とても不自然で聞きづらくなりました。

オリンピックが二年後に近づいた今日。

本当に今のアルファベット表記はただしいのか？

というより、今の表記法は、実用的で且つ相互理解のコミュニケーションの役に立っているのか

今一度、考えてみる必要があるような気がします。

ちなみに（が2回も続いてお聞き苦しいとは思いますが）、やはりちなみに、アルファベット表記に“h”をつけるのは表記作法に倣っていません。

ただ、発音記号は外国人にはなじみが薄いようですし、我々が小学校の時に習ったヘボン式ローマ字の、文字の上に「ー」をつけて表記するのも一般的ではないようなので敢えて、表記の中に“h”を加えてあらわす必殺技を思いついた次第です。